



「以心伝心」は日本人が忘れてはいけない気持ち

駐日パナマ共和国特命全権大使
Ambassador of the Republic of Panama to Japan

アルフレド・マルティス・フエンテス 氏
H. E. Dr. Alfredo MARTIZ FUENTES

Profile

昭和62年に留学のため来日。高知医大(当時)の消化器外科で1年半学び、パナマに帰国後、医師を務めながら国内政治に関心を深め、平成16年に駐日パナマ共和国特命全権大使として着任。

日本語を日本人になった気分で勉強すると日本の風習が理解できる

池崎 大使が日本語の勉強をはじめられたきっかけを教えてくださいませんか。

マルティス 20年前、私は外科医として日本に留学しました。私は消化器外科が専門ですが、その時は内視鏡のテクニックの勉強のために日本に来ました。日本は内視鏡のテクニックが一番ですから。

池崎 その時は何年ぐらいいらしたのですか。

マルティス 2年ですが、その時、広島大学の日本語コースで約2年間日本語を勉強しました。

池崎 日本語はいかがでしたか。難しく感じましたか。

マルティス とても難しく感じました。

池崎 そうですか。何が一番難しかったのでしょうか。

マルティス 発音はそれほどでもないのですが、文法が本当に難しいです。大変でした。ですから、日本語を使いこなすには、日本人の考え方に頭を切り替えて、自分が日本人だと思いながらやりました。

池崎 日本人になった気分で日本語を勉強なさったのですね。日本語ができるようになって、日本人と気持ちが近寄ると思われましたか。

マルティス はい、そのように思います。日本語ができるのとたくさんのメリットがあります。日本語がわかると日本の風習がよく理解できます。私は日本の風習が大好きです。

池崎 日本の風習と言いますと、たとえばどんなところでしょうか。

マルティス 一番は以心伝心の気持ちです。

池崎 難しい言葉を知っていらっしゃいますね。以心伝心と言いますと、何も言わなくても気持ちが伝わってしまう、という意味ですが、日本の社会やグループは気持ちが通い合っているから、一つになっていると思われませんか。

マルティス そうですね。いろいろな人がいるのに、以心伝心の心を持っていることで本当にまとまって見えます。この以心伝心の気持ちは忘れてはいけないと思います。

池崎 今、日本語は大使のお仕事にお役に立っていますか。

マルティス はい、かなり役に立っています。今、私が入っている平成会の他の大使とも日本語でお話しています。

池崎 日本にいるたくさんの大使に平成会のメンバーになっていただきたいですね。日本の政治家やリーダーの方にお会いになって、日本語を使うことがありますか？

マルティス そうですね。以前、平成会のランチで安倍晋三さんとお会いして日本語で「パナマ運河」などについてお話しました。

池崎 やはり日本語ができると大使のビジネスやお仕事に役立つということですね？

マルティス はい、そうです。

池崎 そうですか。では、これからも日本語の勉強をなさりたいという事で私たちもできるだけJRPとしてお手伝いをさせていただければと思います。それで、多くの大使といろいろな関係を深めて、私たちの活動のサポートをしていただけたらと思います。本当は今日はお忙しいところ、ありがとうございました。

マルティス 今日お会いできて、本当に嬉しく思います。今度は是非またいらしてください。

